

## 東京都杉並区高円寺におけるウォークアビリティの特性と まちなかウォークブル推進プログラムの展望に関する研究

都市空間生成研究室  
1741098 副島 沙月

ウォークブルシテ ストリートデザイ 国土交通省  
イ ンガイドライン  
ウォークアビリティ 高円寺 銀座

### 1. 研究の目的と背景

この研究は、現在世界的にウォークブルシティ政策が注目されていることを背景に、日本の政策である「まちなかウォークブル推進事業」に着目し日本の都市の街なみを分析することにより政策の現状を把握し、今後の展望を明らかにしていくことを目的としている。

### 2 「まちなかウォークブル推進プログラム」概要

#### 2.1 「まちなかウォークブル推進プログラム」概要

日本でもウォークアビリティをより根付かせ目指していくために国土交通省は「まちなかウォークブル推進プログラム(令和二年度予算決定時版)として、関連する令和二年度予算や税制改正、検討会・懇談会、作成予定の事例集等を取りまとめた。また令和2年3月には「ストリートデザインガイドライン」も策定され、より国を挙げて、各ストリート改変に取り組んでいくこととなった

#### 2.2 取組の現状と WEDO について

取り組みの現状として、現在 288 団体(2020.12.30 現在)がこの政策に賛同している。WEDO とは「都市の多様性とイノベーションの創出に関する懇談会」において、これからのまちづくりの方向性として打ち出されたものである。

#### 2-3 取り組みについての問題提起

ストリートデザインガイドラインの現状として、それぞれの街の個性を考慮することなくすべての街が同じ指標を与えられ、同じ目標に向かって進んでいるのではないかと考えた。そこで本研究では各々の都市はそれぞれの街の個性があり抱えている問題もさまざまであるはずでありその都市に合ったウォークブルの指標を作り、街の良さを生かしていけるような政策を目指していくべき

であると考え、それを明らかにし今後の政策の展開について検証していく。

### 3 WEDO を指標とした高円寺の分析について

#### 3.1 調査方法

3 章では高円寺の街並みを WEDO の指標から分析していく。対象範囲は先行研究<sup>1</sup>から誰でも気軽に歩ける街の理想の規模として半径 400m 圏内が提示されていたことを踏まえ JR 高円寺駅から半径 400m 圏内とする。

#### 3.2 調査の分析① W

高円寺の歩車分離の現状は、大通りはある程度歩道が整備されており、商店街は時間によって車両通行禁止時間が設けられていた。歩道が整備されていない通りの道幅は十分の広さがなく課題が残ることが明らかになった。

#### 3.3 調査の分析② E

商店街の店舗の一階部分の特徴として、ガラス張りで見えるようになっているかつ入り口が元々開いている状態になっていることが明らかになった。また入り口の外側に商品が溢れだしている店舗が多くみられ、あふれ出しの商品の種類も多岐にわたるものになっていた。

#### 3.4 調査の分析③ D

高円寺の商店街には多岐にわたる業種の店舗が存在しており、商店がごとに店舗の割合に偏りが見られた。また2章で述べた通り溢れだしが多いことによって人の滞留空間が生まれ、コミュニケーションが生まれていた。様々な店舗が立ち並んでいることは幅広い世代からの需要があると考えられる。(図 3.4-1)

<sup>1</sup> 「吉祥寺スタイル」 三浦 展十渡 和由 研究室 文藝春秋

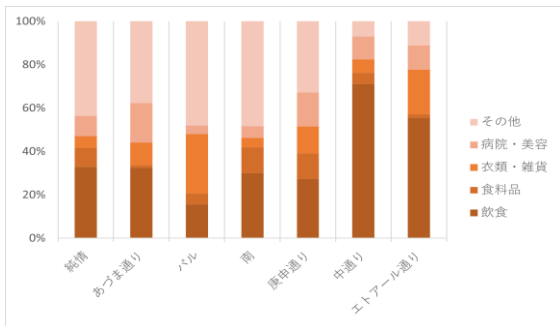


図 3.4-1 商店街ごとの業種割合

### 3.5 調査の分析④ 0

寺や神社、遊具が置かれている公園など特徴的な緑地が存在していた。しかし歩道部分に配置されている緑地は少なく、歩行者の視覚に入る場所に緑を設置しなければならない部分が課題であった。また気軽に一休みできるような椅子やベンチの数が十分でないことも課題として挙げる事ができた。

## 4 WEDO を指標とした銀座の分析

### 4.1 銀座駅周辺の比較目的と対象地域の選定理由

本章ではウォーカブル推進プログラムについて更に見解を深めていくこと、かつ銀座の街並みを高円寺同様に分析していくことにより、さらなる高円寺のキャラクターを明らかにしていくことを目的としている。なお銀座を選定した理由としては、銀座三越、和光などの大型百貨店が複数存在しハイブランドな店舗が立ち並ぶ高円寺とは対照的な街並みをもっているながらも、既に一つの街としてのブランドが確立している街並みであることから比較対象都市として選定した。

### 4.2-4.5 調査の分析①~④

銀座の歩道環境は整備されている場所が多く歩行者にとって歩きやすい空間であり、店舗一階部分の作りは、ガラス張りで、中の様子が見えるつくりになっており、かつそこから綺麗にディスプレイされた商品が見られる店舗が多いのが特徴的であった。ハイブランドな店舗、百貨店が多くみられることが銀座ならではの街並みであるといえるだろう。歩道に等間隔で木が植えてあり、歩行者が歩きながら緑を感じることでできる空間であることも評価できるポイントであった。

## 5 高円寺と銀座の調査を踏まえた比較分析

### 5.1 二つの都市の比較結果

二つの都市を比較することによりそれぞれの街の特性が明らかになり、ウォーカビリティの指標を固有性と普遍性に区別することができることが明らかになった。

### 5.2 普遍的指標と固有的指標

表 5.2-1 普遍的指標と固有的指標

普遍的指標 (どの都市においても必要であると考えられる部分)	固有性指標 (高円寺、銀座それぞれの街ならではの特性とそれだけが持つべき部分)
<ul style="list-style-type: none"> <li>歩道が整備されている</li> <li>歩行者の視界に入る店舗の一階部分が開けている</li> <li>店舗から光があふれ出ている(防犯面での安心感)</li> <li>多様な人々と交流することができる</li> <li>歩行者が自然を感じる事ができる(緑地)</li> <li>気軽に休める椅子やカフェがある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>高円寺</li> <li>時間帯による歩車分離政策</li> <li>あふれ出しの数、種類の多さ</li> <li>多種多様な業種による幅広い世代からの需要</li> <li>定期的な参加型イベントの開催</li> <li>アーティストとの交流の場が身近な部分にある</li> <li>神社、寺などによる緑地</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>銀座</li> <li>商品が綺麗にディスプレイされたショーウィンドウ</li> <li>老舗百貨店、ハイブランドショップが立ち並ぶ街並み</li> <li>期間限定型のイベントスペースによる交流の場</li> <li>歩行者が緑を感じる事ができる(歩道の植物)</li> </ul>

### 5.3 総括

上記までの調査から様々な都市でウォーカビリティを目指していくにあたって高円寺の溢れ出しが生み出す効果や、多種多様な業種が立ち並ぶことから考えることのできる利用する人々の多様性など、上記で述べたようなその都市をウォーカビリティの面から評価した際に明らかになった街の特性や、視点を変えれば街の強みにもなりうる問題点を理解した上での指標が必要であり、ウォーカブルシティの正解は一つではなく街なみの数だけあると考えることができることが明らかになった。

## 6 結論

### 6.1 研究結果の総括

ストリートデザインガイドラインによる指標によって高円寺、銀座二つの都市を分析したことにより二つの都市にはそれぞれの特性、良さがあることが明らかになった。ウォーカビリティの視点から街を評価した際に改善しなければいけない点が明らかになったことは確かであるが街ごとに抱えている問題には違いが見られ、更にその問題点も街の特性の一つであると考えることができ、1章で唱えた通り、それぞれの街の現状を見据え、それに合ったウォーカブルシティを作っていくための政策があるべきであるといえることが明らかになった。

#### 参考文献

吉祥寺スタイル -楽しい街の50の秘密- 三浦 展+渡 和由研究室 文藝春秋